

令和4年度事業計画（案）

I 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきています。

一般財団法人世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目的とし、防災(BOSAI)という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させる事業を行ってまいります。そして、この事業を通して仙台防災枠組、パリ協定、持続可能な開発目標 (SDGs)の達成や実施のために貢献してまいります。

II 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

【WBF2023開催準備 2023年3月10日～13日開催予定】

世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携し、専門家だけでなく国内外から産・官・学・民の防災関係者が広く集まる仙台発の市民国際フォーラムです。東日本大震災の知見の共有や、防災の具体的な解決策について議論し、「BOSAI」の取り組みを世界に広げ、「仙台防災枠組 2015-2030」を推進してまいります。

当初2021年に実施予定でしたが、コロナの影響で延伸し、最終的に2023年3月10日開催で決定しました。今回は、特に、民間セクター・女性・若年層の参加を促すよう企画や参加方法に関し工夫してまいります。さらに、統合的・学際的なテーマで議論し、参加者どうしの交流の促進を重視します。

また、世界防災フォーラムでは、防災文化の醸造を大切にしています。虎舞や獅子舞等の地域の民俗芸能、コーラス、オーケストラやブラスバンドなどの音楽、歴史的遺産等々、防災が文化という形に昇華されることで、長く忘れずに記憶することができるものと考えます。

【世界防災関連博物館のネットワーク構築事業】

博物館は市民が防災を身近に感じることができる施設として重要な意味を持っています。しかし、現状では世界の博物館リストや、博物館同士のネットワークすら存在していないのが実情です。まずは「World Bosai Walk Tohoku+10」で培った東北沿岸部の震災博物館や伝承館のネットワーク作りから開始してまいります。

(2) 調査研究事業

【G D B 運営支援事業】

防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させるためには、災害が経済に与える影響を、わかりやすい形で示す必要があります。仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバル統計センターの活動を支援してまいります。

【途上国の災害リスクの軽減プロジェクト(バングラデッシュのトルネード災害の軽減)】

バングラデッシュの気象庁、バングラデッシュ防災センター、世界風工学会等と連携し、ICTを駆使したトルネードの警報システムの導入と、住民が命を守ることを可能にするトルネード・シェルターの普及を目指したプロジェクトに取り組んでまいります。

2. 収益事業

昨年は名取市観光物産協会様より「東北レジリエンス・ツーリズム(災害・復興の知を学ぶ教育・研修旅行)創生事業」を受託し、私たちの知見や情報を提供しました。

今年度以降も、同様な事業を実施してまいります。

III 運営基盤の強化について

近年は、コロナにより、活動を縮小せざるを得ませんでした。令和4年度は継続した事業の実施のために、以下の点で運営基盤の強化を図ってまいります。

1. 財務

第3回世界防災フォーラムのスポンサー募集や参加登録を早期に開始する、支援者とのコミュニケーションを増やし、会員制度や寄付メニューを整備する等、財務基盤の安定を実現する。他にもいくつかの収益事業も手掛けます。

2. 体制

新たな専従職員、また支援企業からの応援職員を採用し、第3回世界防災フォーラムの準備にあたらせたい。

3. 広報活動

広報活動を重視し、WEBサイトの充実や財団紹介のためのパンフレット作成など財団知名度向上のための活動を強化する。

以上